

高尾山山頂から発信！

のぶすま

「のぶすま」とは
ムササビの古い呼び名です。



vol. **85** 季刊
2026年秋号

高尾山に暮らす モグラの仲間

高尾山の土は肥沃で程よい水分が含まれており、モグラの暮らしに適した
土壌環境となっています。本号では、「土に潜るモグラ」だけでなく同じ真無盲
腸目(しんむもうちょうもく)に分類される「モグラの仲間」を紹介します！



モグラ塚

トンネルを掘るときに発生した
土を、地上に押し出した土捨て場。モグラ叩きのように顔は
出てくることはありません。



モグラの仲間は大食漢！

自分のトンネルに落ちた昆虫やミミズの仲間を食べています。
飼育下のアズマモグラは体重より多くのミミズを食べた記録も！?

高尾山で見かけるモグラの仲間は3種類

一般的にモグラと
呼ばれる種類

ニホンモグラ属 アズマモグラ



地下性

全長12～16cm

地下トンネル生活のため、手足は横に位置し、目は小さく退化しています。高尾山の登山道沿いではモグラ塚をよく見かけます。

ヒミズ属 ヒミズ



半地下性

全長10～14cm

落ち葉層と地面の間で活動します。モグラに似ていますが、尻尾が長く、前あしは後ろあしと同じくらいの大きさです。

ジネズミ属 ニホンジネズミ



地上性

全長約10cm

モグラの耳は地中で邪魔になるため、穴しかありません。しかし、土に潜らないジネズミの耳は大きいのが特徴です。

解説員 こらむ

vol.47

はじまりの山

高尾山はアクセスが良く、難易度の異なるコースがあることから、登山の「はじまりの山」として、多くの人に親しまれています。そんな高尾山で、私にとつてのある「はじまり」がありました。

私は進学をきっかけに関東へ引っ越してきました。まだ周りのことに詳しくない頃、近隣の有名な観光地として高尾山の名を耳にしたのが最初の出会でした。友達にも高尾山登山を勧められ「いつか行きたい」と思っていました。山は危険というイメージがあり、なかなか行く勇気が出ず、気が付けば大学4年生に。そんな時、就職活動中に会社から高尾山配属の話があり、面接の日に初めて高尾山を訪れる機会ができました。その日は初心者向けの1号路を歩きましたが、山の中に舗装された道や、お店があることに驚きました。想像していた険しい山道ではなく、登山初心者の私でも安心して歩くことができ「もっと早く来ればよかった」と感じたことを覚えています。

その後、ご縁があり高尾山で働くことになりました。振り返ると、私にとって高尾山は登山をはじめきつかけとなった場所であり、社会人生活がはじまった場所にもなりました。初めて高尾山を訪れた日は面接のことで頭がいっぱいでしたが、今思えば、私にとって高尾山での様々な「はじまり」の日だったのだと感じています。

人との出会いや自然への興味など、高尾山では一人一人違った「はじまり」があるかもしれません。皆さんにとって、高尾山はどんなはじまりの場所ですか？

〈解説員 わたなべ〉

季刊高尾ビジターセンターニュースレター「のぶすま」2026年秋号vol.85

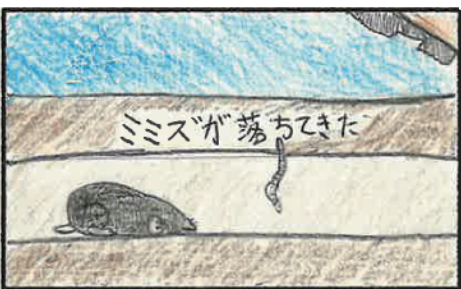
東京都高尾ビジターセンター自然解説員作成 2026年10月1日発行

所在地:〒193-0844東京都八王子市高尾町2176 電話:042-664-7872 FAX:042-662-9926

(公式ホームページでバックナンバーが閲覧できます <https://takaovc.ces-net.jp/>)

たかおさん

「トラップ」の巻



作・絵：やぎぬま

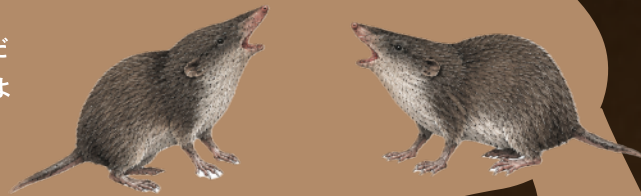
「のぶすま」最新号とバックナンバーを高尾山山頂にある、高尾ビジターセンターにて配布しております。
ご希望の方はビジターセンター窓口までお越し下さい。

実録！解説員による観察例

地中や落ち葉に潜ったり、体も小さく人の目で見つけることが難しいモグラの仲間たち。毎日高尾山を登っているスタッフたちも、遭遇する機会はとても稀です。そんな貴重なモグラの仲間たちとの出会いをご紹介します。

『鳴きかわすニホンジネズミ』

女坂で「チッチッチ」と、細く、甲高い音に気がつきました。斜面を見ると、まだ若いニホンジネズミがひっきりなしに鳴いています。近くに他の個体もいるようで、互いに鳴きかわしていました。地下で暮らすモグラに対し、地上で暮らすジネズミは音が土に吸収されないため、頻繁に鳴き声を使うようです。



『ニホンジネズミを追いかけてまわすヒミズ』

3号路の石垣で、喧嘩のような鳴き声が聞こえてきました。隙間に広がるトンネルを覗くと、ジネズミを執拗に追うヒミズの姿が…。ヒミズは「ピーッ」と威嚇しながら体当たりでジネズミを突き飛ばします。たまたまジネズミは石垣の奥へ逃げていきました。



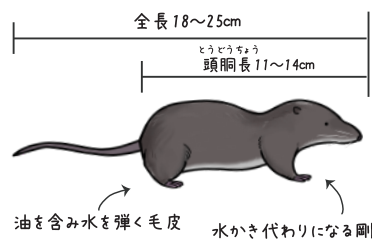
『モグラはまずい？』

モグラの仲間は独特の臭いを放つため、他の動物に捕獲されても、食べられずに綺麗な状態の死体が登山道に転がっていることがあります。初夏に若い個体が親の縄張りを追い出され、地上に出たところを捕まってしまうことが多いようです。



川に暮らすモグラは幻の存在に。

カワネズミ属 ニホンカワネズミ



1947年から八王子市の動物の目撃情報を集約していた金井郁夫氏によると、高尾山で当時最も目撃情報が多い動物は、モグラの仲間。その中には「カワネズミ」も多く含まれていました。カワネズミは溪流沿いに生息し、魚を食べて暮らしています。そのため溪流環境の減少や、水質変化の影響をとても受けやすい動物です。1900年代までは高尾山麓を流れる案内川や小仏川での生息が確認されていましたが、2000年代に入ると、確かな記録は無く個体数の減少が考えられます。

参考文献：東京の山高尾山(1986年)、新八王子市史自然編(2014年)

最後に

今回は高尾山に暮らすモグラの仲間を紹介しました。土に潜らない種類が多く、驚いた方もいらっしゃると思います。掘ったり泳いだり、鳴いたり、種類により暮らしのスタイルは様々で、謎に包まれている部分も多いです。また、本号作成の過程で高尾山のモグラの仲間の数が減少していることを感じました。特徴的な生態をしているだけに、自然界でモグラの代わりを担える動物は少ないです。「のぶすま」をきっかけに、様々な動物が関わり合いバランスを保つ高尾山の森で、人知れず数を減らしていた「モグラの仲間」に興味を持っていただけたら幸いです。(解説員おかだ)

※のぶすまに使用されたイラストは解説員が撮影した写真を元にAIを用いて作成しています。

高尾山の れまし vol.47

知られざる登山道の歴史①

高尾山でそれぞれの登山道の楽しみ方が紹介されている本はあれど、各登山道の歴史に注目したものは多くありません。それぞれの登山道は、一体いつ頃から歩かれるようになったのでしょうか。本号から第3編に渡り、高尾山の登山道の歴史を紐解いていきます。

744年に薬王院が開山されて以来、山岳信仰の修行の場とされてきた高尾山。江戸時代に入ると富士講が流行し、一般庶民の間でも高尾山への参詣が盛んになりました。(富士講について、詳しくは「のぶすま67号」歴史コーナー参照)

かつては上栲田村の落合集落から金毘羅台へ直登するルートが表参道とされていたものの、史料によると1790年ごろから、現在の1号路が表参道とされました。『武州高尾山略絵図』によると、入口には「一の鳥居」と呼ばれる大きな鳥居があったことが読み取れます。なんと、高さ7.2m、柱の間隔は4.3mにも及ぶ立派な鳥居だったそうです。実際に不動院の敷地内からも、かつての鳥居の礎石(そせき)が発見されています。

そして、江戸時代後期には、多くの紀行文や図誌を残したことでも有名な竹村立義(たけむらたけよし)が高尾山を訪れ、『高尾山石老山記』を記しました。そこには、当時の表参道や琵琶滝の様子が描写されています。『高尾山石老山記』現代語訳より、

高尾山の入口には鳥居があり、「びわの瀧」への標識が示されていた。表参道から14〜15町(約1.5km)の距離にあり、傾斜は緩やか。滝の近くには民家が2軒あり、水垢離(みずごり)・滝に打たれて身を清める修行)をする行者や供の者が、日数に応じて滞在する場

所である。「あらゆる病気に効果がある」ということで、近年は並外れて流行しており、時には大勢の人が集まることもあるそうだ。(中略)私は琵琶滝を一通り眺めてから、表参道から登る。この場所を「七曲り」と言う。坂道は羊の腸のようにくねくねと折れ曲がっており、10町(約1.1km)ほど歩いて金毘羅の社に到着した。この場所は少し平地になっており、茶店がある。※七曲り：ジグザグ折れ曲がった道や坂が続く様子のこと。

1号路の金毘羅台までの急坂について「羊の腸のよう」と表現されるほど印象的だったことに共感を覚える方も多いのではないのでしょうか。この急坂を上がると眼下には急峻な地形と杉林が広がり、その景色からは達成感を味わえます。当時の人ともこの大変さを分かち合えると思うと、さらに感慨深いです。急坂後の茶屋での一服はさぞ格別だったことでしょう。

次号「知られざる登山道の歴史②」へ続く。

〈解説員 かわたま〉

参考文献
『郷土資料館資料シリーズ第55号 高尾山石老山記』、八王子市教育委員会、平成27年発行
『高尾山歴史の散歩道』、外山徹、ふく出版、二〇二一年発行
『高尾山の社会史』、金川英雄、青弓社、二〇二五年発行

解説員の

ちおし vol.43

オオハナワラビ

花を咲かせるシダ？



※このイラストは解説員が撮影した写真を元にAIを用いて作成しています。

シダの花を見たことはありませんか？胞子を付ける葉が花のように見えることから『ハナワラビ』と名付けられたシダがあります。ハナワラビの仲間は三角形の葉の間から花のように見える葉を伸ばすのが特徴。高尾山ではオオハナワラビをよく見かけます。シダの中では比較的分かりやすいと思うので、ぜひ探してみてください。

よく見られる場所…3号路
観察時期：9月〜10月ごろ

〈解説員 いしかわ〉